



記入日 2014年1月14日

## 1. 概要

実践団体名	千葉県立千葉聾学校		
連絡先	校長 千葉 晃 (043-291-1371)		
プランタイトル	伝える・伝わる・伝え合う防災教育 ～コミュニケーション力の向上による減災への取り組み～		
プランの対象者※1	大学生、教職員・保育士等、 保護者・PTA、地域住 民、養護学校児童生徒、 防災関係者	対象とする 災害種別※2	1 幼児・保育園児・幼稚 園児

※1 別紙「記入上の留意点」の1. 項目から選択し、記入してください。(複数選択可)

※2 別紙「記入上の留意点」の2. 項目から1つ選択し、記入してください。

## 【プランの目的・ここがポイント!】

1. 自助の観点から言語力の活用を中核とした授業の実践を通して伝わる経験をする。
2. 地震を想定した校外での防災訓練を行い、伝える意識を高める。
3. 合同総合防災訓練の展開により、地域と一体になり、共助の観点から伝え合う防災意識を高める。

## 【プランの概要】

- ・千葉市緑区との共催による「子ども防災体験」を開催した。
- ・淑徳大学・千葉南消防署の協力のもと、防災訓練を学期に1回実施した。
- ・小学部6年生と保護者が「防災安全マップ」の作成にチャレンジした。
- ・中学部の修学旅行の学習として、テーマパークの災害時における聴覚障害者の避難誘導方法や避難所などの聞き取り調査を実施した。
- ・本校児童・生徒および保護者、近隣住民を対象に「防災講演会」を開催した。

## 【期待される効果・ここがおすすめ!】

一人一人の防災安全マップづくりを行い、保護者と一緒に防災や安全について考え、自分で判断し行動する意識の高まりが期待できる。近隣の防災訓練の実施により、かかわる人たちの理解の高まりと地域の防災コミュニティへ参加により、幅広く伝え合うコミュニケーション力等の向上が可能になる。

## 2. プランの年間活動記録 (2013 年)

	プランの 立案と調整	準備活動	実践活動
4月	・分掌および係の年間計画に位置付ける調整	・安全指導・生徒指導・安全指導係による防災訓練の計画の企画	・広域非難所への非難訓練(職員) ・第1回防災訓練(全学部) ・校外学習時の避難場所の明記の徹底
5月		・引き渡し訓練・不審者対応訓練の企画	
6月			・引き渡し訓練(全学部) ・不審者対応訓練(全学部)
7月	・防災安全マップ作成の学部調整 ・子ども防災体験の実施調整	・防災安全マップ作成に関わる保護者説明 ・子ども防災体験および防災訓練の準備	
8月	・淑徳大学との連絡調整	・備蓄食糧の補充計画の作成	・子ども防災体験(千葉市緑区と共催) ・防災安全マップの作成
9月	・テーマパークの聞き取り調査の調整	・防災安全マップの発表および聞き取り調査の準備	・備蓄食糧の補充 ・第2回防災訓練(淑徳大学が参加) ・防災安全マップ校内発表と掲示
10月	・防災講演会に関する講師との折衝	・防災講演会に関する講師との準備	・中学部修学旅行におけるテーマパークの避難誘導聞き取り調査 ・中間報告会への参加
11月		・テーマパーク聞き取り調査の発表準備	・防災講演会の開催 ・テーマパークの校内発表と掲示
12月		・防災訓練の企画	・校内安全点検
1月	反省事項のとりまとめ企画	・報告書の作成	・第3回避難訓練
2月		・決算書の作成	・最終報告会への参加
3月		・校内の反省会への準備(アンケート作成・集計)	・反省事項と次年度以降の取組について

## 3. 実践したプランの内容と成果

【実践プログラム番号： 1】※3

タイトル	子ども防災体験
実施月日（曜日）	8月3日（土）
実施場所	千葉県立千葉聾学校 体育館および校庭
担当者または講師	担当者・講師等の区分：講師等 氏 名：千葉市緑区地域振興課くらし安心室 所属・役職等：
所要時間または「コマ数×単位時間」	180分
プログラムのカテゴリ、形式 ※4	1（イベント・行事） 16（避難・防災訓練）
活動目的※5	10（その他） 遊び楽しみながらの災害対応力を親子で身に付ける。
達成目標	減災のための技術を身に付け実践できる
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	①親子で活動する（屋内で5つをローテーションで活動した） 心肺蘇生・三角巾・ロープワーク・簡易トイレ制作・雨具作成 ②親子で経験する（屋外で2つをローテーションで経験した） 煙ハウス・起震車 ③親子で非常食の試食
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	①人材 手話通訳ボランティア・防災 NPO S L ネットワーク・消防署員 ②道具・材料等 起震車・煙ハウス・AEDキット・段ボール・ビニール袋・ロープ・布・非常食・大型扇風機など
参加人数	児童・生徒および保護者をあわせて45名
経費の総額・内訳概要	17,000円（大型扇風機・カラーコーン）
成果と課題	【成果】 「参加して楽しかった」「今後の防災活動に役立つ」「また参加したい」などの感想が寄せられた。 【課題】 継続的な実施が難しい。この事業を本校単独で行うためのシステム作りが求められる。市当局との折衝が必要である。

成果物

千葉市ホームページ  
<http://www.city.chiba.jp/midori/chiikishinko/H25kodomebousai1.html>

【救命講習・AED】



【非常時に使えるロープワーク】



【煙ハウス】



【起震車】



【三角布】



【段ボールトイレ】



【非常食の試食】

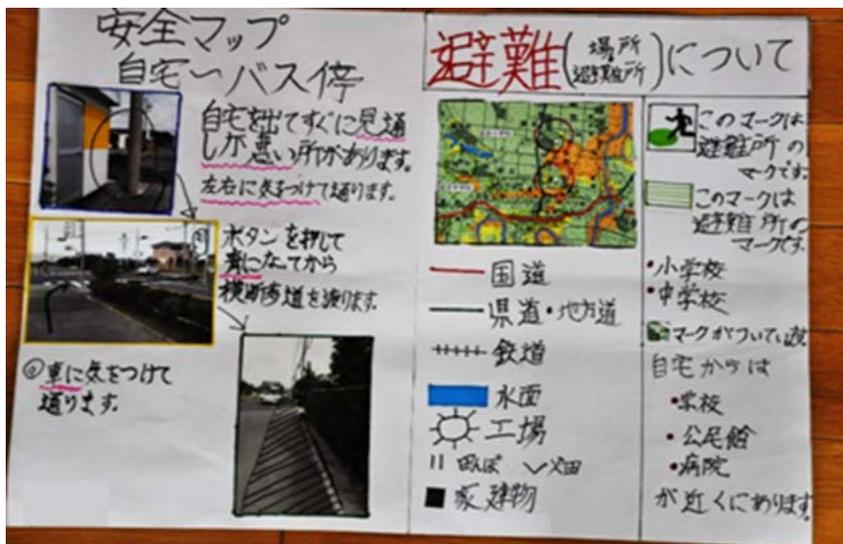


【実践プログラム番号：     2    】※3

タイトル	防災安全マップ
実施月日（曜日）	夏休み期間
実施場所	各自の自宅周辺
担当者または講師	担当者・講師等の区分： 氏 名： 所属・役職等：
所要時間または 「コマ数×単位時間」	家庭により調査・作成の時間が異なる
プログラムの カテゴリ、形式※4	4（総合的な学習の時間） 6（学級活動）
活動目的※5	8（防災意識を高める）
達成目標	自宅周辺の危険箇所や避難場所を親子で把握する
実践方法・進め方 （箇条書き またはフロー）	①見本の作成 ②夏休み前に保護者への協力依頼 ③夏休み中の実践 ④完成物の掲示による下級生への啓発
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	人材・・・本校教員 道具・材料等・・・模造紙配付・その他は各家庭にて準備
参加人数	小学部6年生12人の親子
経費の総額・内訳概要	0円
成果と課題	【成果】 日頃から歩いている場所であるが、改めて危険な箇所や震災時の避難場所などを確認できた。 【課題】 継続的な実施に向けた保護者への啓発、作成にあたっての消耗品の購入などが課題である。



成果物



【実践プログラム番号：       3      】※3

タイトル	淑徳大学学生消防隊と協同で防災訓練の実施
実施月日（曜日）	平成25年9月9日（月）、平成26年1月29日（水）
実施場所	千葉県立千葉聾学校の体育館及びグラウンド他
担当者または講師	担当者・講師等の区分： 氏 名： 所属・役職等：
所要時間または 「コマ数×単位時間」	50分／1回
プログラムの カテゴリ、形式※4	16（避難・防災訓練）
活動目的※5	4（災害を想定した訓練）
達成目標	淑徳大学の消防隊と協力して地震や火災発生時の基本的な対処行動を確認する。また、模擬体験（消火活動、起震車体験等）や消防車両の見学を通して、防災についての意識や関心を高めていく。
実践方法・進め方 （箇条書き またはフロー）	①地震や火災が発生するという想定での避難訓練を実施する。 ②放送や避難指示を聞いて、安全を確認しながら避難する。 ③起震車・煙ハウス体験・水消火器・消防車の放水体験・消防車両見学などに分かれて模擬体験活動を行う。 ④クラスごとに体験活動の振り返りを行う。
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	人材・・・本校教員、淑徳大学職員と学生消防隊、千葉市緑消防署員、千葉市防災普及公社職員 道具・材料等・・・水道代
参加人数	幼児児童生徒と職員、大学職員と学生、関係職員等（約250名）
経費の総額・内訳概要	0円
成果と課題	【成果】 避難の方法を知り、一人一人が安全に留意して避難していくことができた。また、模擬体験活動では、防災についての意識を高めることに役だった。今後も継続して取り組んでいきたい。 【課題】 今年度は実施できなかったが、大学との連携では、学生ボランティアを募り、避難誘導等で本校の子どもたちとかかわりをもってもらえたらと考えている。また、関係機関と連携をとりながら模擬体験活動を継続的に取り組んでいく方法について、検討が必要である。

成果物



## 【実践プログラム番号： 4】※3

タイトル	テーマパークの避難誘導聞き取り調査
実施月日（曜日）	平成25年9月26日（木）（修学旅行2日目）
実施場所	ユニバーサルスタジオジャパン（愛称：USJ、大阪府）
担当者または講師	担当者・講師等の区分： 氏 名： 所属・役職等：
所要時間または「コマ数×単位時間」	見学・調査：1日 資料作成：事後学習として2時間
プログラムのカテゴリ、形式※4	9（校外学習・移動教室）
活動目的※5	6（防災に関する意識を高める）
達成目標	修学旅行の学習として、テーマパークの災害時における聴覚障害者の避難誘導方法や避難所などの聞き取り調査を実施して、パーク内の緊急対応について知る。また、万が一に備え、避難誘導・避難場所等を知り、安全に留意して避難できるようにする。
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	①旅行先でのアトラクションや園内の施設についての情報を入手して、グループごとの見学・活動ルートを決める。 ②グループごとにそれぞれのアトラクションの緊急対応や避難等に関わる情報の聞き取り調査を行う。聞き取りの仕方は、事前に準備しておいたプリント資料を確認しながらスタッフにインタビューしていくようにする。 ③調査したことをグループごとにまとめ、掲示用の資料を作成する。 ④文化祭で調査したことを掲示する。
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	人材・・・本校教員 道具・材料等・・・模造紙配付、その他は各クラスにて準備
参加人数	中学部生徒20名と引率職員およびクラス担当職員（約30名）
経費の総額・内訳概要	0円
成果と課題	【成果】 （1）緊急時にはアトラクションが安全のために一時停止すること （2）パーク内には避難経路があること （3）障害のある方への配慮として手話や筆談をしたり、付き添って案内をしてくださる方がいる。 以上のことを知ることができた。また、調査をして、「聴覚障害があっても安心して遊びに行ける」「園内でも安全に過ごせるようにいろいろな配慮がされていて、驚いた」「色々な話をしてくれて、大変勉強になった」等の感想があった。 【課題】 災害がいつやってくるのかわからない状況の中で、「自分の命は自分で守る」という意識の醸成、調査してわかったことを実生活にいかすため、継続的な取り組みが必要である。



成果物

**USJ 避難調査**

メンバー  
1-1 植田 真、1-2 藤原 真、1-3 藤原 真、1-4 藤原 真、1-5 藤原 真

Q 地震が起きたときアトラクションはどのようになりませんか？

**A 止まるそうです。**

Q 避難時の順番はどのようにしてお客様を誘導しますか？

**A 大通りに避難してその後順番に奥の方へ戻ります。近頃は山が崩れるので、避難経路は大通りに避難してその後順番に奥の方へ戻ります。**

Q 避難時お話をしているお客様にどのような方法で避難を知らせますか？

**A 音声的に知らせます。**

Q 避難時お話をしているお客様にどのような方法で避難を知らせますか？

**A 音声的に知らせます。**

Q 避難時お話をしているお客様にどのような方法で避難を知らせますか？

**A 音声的に知らせます。**

**WATER WORLD インタビュー**

地震が起きたときアトラクションはどのようになりませんか？

**A 安全の為一度止まります。**

避難の時はどのようにしてお客様を誘導しますか？

**A まずは声かけで誘導してもらいます。そして頭を中へ入ります。**

避難時お話をしているお客様にどのような方法で避難を知らせますか？

**A 音声的に知らせます。**

避難経路はどのようにしてお客様に教えますか？

**A 避難経路は一通りお客様に教えます。安全に避難できる場所があります。ここで働いている人はみんな安全な場所へ避難します。**

**USJ アトラクション**

**ジョーズの避難調査!**

メンバー  
日向野、花野、川名、田中、伊藤

Q 地震が起きたときアトラクションはどのようになりませんか？

**A アトラクションは停止し、安全な所に避難します。建物の中で避難する場合は、天井の下に隠れます。**

Q 避難の時はどのようにしてお客様を誘導しますか？

**A 音声でお客様に知らせることで安全な所に誘導します。**

Q 避難時お話をしているお客様にどのような方法で避難を知らせますか？

**A 音声で知らせることで、安全な場所に誘導します。**

Q 避難時お話をしているお客様にどのような方法で避難を知らせますか？

**A 音声で知らせることで、安全な場所に誘導します。**

Q 避難経路はどのようにしてお客様に教えますか？

**A 避難経路は一通りお客様に教えます。安全な場所に避難します。**

**ジュラジックパークのUSJ 避難調査**

メンバー  
日向野、花野、川名、田中、伊藤

Q 地震が起きたときアトラクションはどのようになりませんか？

**A 全てのアトラクションは停止します。**

Q 避難の時はどのようにしてお客様を誘導しますか？

**A 広い場所へ避難し、安全な所に避難します。建物の中で避難する場合は、天井の下に隠れます。**

Q 避難時お話をしているお客様にどのような方法で避難を知らせますか？

**A 音声でお客様に知らせることで、安全な場所に誘導します。**

Q 避難時お話をしているお客様にどのような方法で避難を知らせますか？

**A 音声でお客様に知らせることで、安全な場所に誘導します。**

Q 避難経路はどのようにしてお客様に教えますか？

**A 避難経路は一通りお客様に教えます。安全な場所に避難します。**

**中3は修学旅行先のUSJへ避難訓練を実施**

## 【実践プログラム番号： 5】※3

タイトル	防災講演会「聞こえる世界と聞こえない世界をつなぐ」 ～ユニバーサルデザインから防災まで～
実施月日（曜日）	11月6日（水）
実施場所	千葉豊学校体育館
担当者または講師	担当者・講師等の区分：講師等 氏 名：松森 果林 氏 所属・役職等：ユニバーサルデザインコンサルタント、その他
所要時間または 「コマ数×単位時間」	準備：60分 講演：50分
プログラムの カテゴリ、形式※4	3（講演会・シンポジウム）
活動目的※5	10（その他） 児童、生徒の防災に関する知識を深め、危機意識を高める。さらに、保護者及び近隣一般市民に聴覚障害者の防災について周知を促す
達成目標	防災についての知識、理解を深め、危機意識を高めることができる。
実践方法・進め方 （箇条書き またはフロー）	①講師への依頼、打ち合わせ等 ②手話通訳士への依頼 ③有志の生徒たちで講演会の実行委員会を立ち上げて準備活動 （ポスターを作成し校内掲示、講演会の司会進行、講師接待） ④近隣の役所、町内会、学校の同窓会等へ案内状の配布
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	①人材 講師、手話通訳士、本校職員、実行委員の生徒など ②道具、材料等 PC、スクリーン、プロジェクター、パイプ椅子、講演会資料
参加人数	児童、生徒、保護者、職員、近隣の町内会、同窓会員等あわせて 約220人
経費の総額・内訳概要	41,660円（講師謝金・手話通訳士経費・湯茶・作品展示費）
成果と課題	【成果】 講師の方も聴覚障害者であり、「体験談を含めた非常に分かりやすい内容だった。」「防災に対する意識が変わった。」「もっと話が聞きたい。」などの感想が寄せられた。 【課題】 経費確保の観点から継続的な実施は難しい。実施した際には、講演時間をもう少し長くしてほしいという反省があった。

成果物





#### 4. 苦勞した点・工夫した点

<p><b>プランの立案と調整で苦勞した点 工夫した点</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・千葉県緑区との共催による「子ども防災体験」の開催にあたり、聴覚障害の学校と近隣の小学校児童、鎌取自治会の方々をどのようにすれば一緒に活動できるか、インテグレーションの観点から企画立案に苦勞した。</li> <li>・防災訓練の実施にあたり、児童生徒に実践的で効果的な防災教育の実施について見直しの検討を行った。検討内容は、多くの児童生徒が訓練を実体験し、「伝える」意識を高める活動の展開のための工夫を行う。千葉県緑消防署の協力に加え、淑徳大学学生消防隊に新たに協力を仰ぎ、消防放水体験や消防車の見学、起震車体験等、地震や火災を想定した防災訓練を行うことにした。</li> <li>・本校の生徒は千葉県全域から通学していることから、学校の周辺についての防災マップを作成することは現実的にそぐわない。さらに、学区内の探索活動を経験している児童生徒が少ない、聴覚障害者の視点で自宅周辺の危険箇所の確認をしたことがない、避難所の場所や行き方を知らないなどの現実がある。これらの経験を盛り込んだマップ作成の実施について検討を行った。小学部の6年生に保護者と一緒に、防災や安全の観点から、自宅を中心とした防災安全マップを作成し、日頃から歩いている場所について、危険な箇所や震災時の避難場所などの確認のために「防災安全マップ」の作成にチャレンジすることにした。</li> <li>・教職員へ校外学習の立案段階で訪れる予定の施設について、災害時の避難誘導方法や避難所などについて計画に盛り込むようお願いした。生徒の主体的な取り組みに移行させる工夫をした。中学部の修学旅行において生徒たちが聞き取り調査を行い、文化祭で発表し、情報発信の活動に展開することにした。</li> <li>・本校児童・生徒および保護者、近隣住民を対象に「防災講演会」を開催したいが、生徒の抱える障害を本質的に理解できていて、かつ、防災に関する講演なので人選に苦勞した。最終的に淑徳大学からご紹介をいただき、聴覚障害者の立場から、「聞こえる世界と聞こえない世界をつなぐ」と題した講演会を開催できた。</li> </ul>
<p><b>準備活動で苦勞した点 工夫した点</b></p>	<p>関係機関との連絡調整は校長を中心に、淑徳大学・千葉県緑消防署・千葉県緑区役所・鎌取自治会など多岐に及んだ。特に行事ごとに関わる機関が入れ替わるため、煩雑を極めた。また、その過程で関係機関の方々から、機材提供や人材の派遣、講師の紹介などをしていただいた。まさに、各関係機関の方々の豊富な経験と人脈を有効に活用するためには、どのようにスケジュールを組んで取り組んでいくかを工夫でもあり、準備段階最大に苦勞でもあった。</p>
<p><b>実践に当たって苦勞した点 工夫した点</b></p>	<p>子ども防災体験の際に、「伝え合う防災意識」の向上と地域防災の活動に展開させるため、話し合いができる雰囲気づくりを工夫した。本校の児童生徒が積極的に「筆談や身振り手振り」で話しかけない限り、手話通訳を介さないコミュニケーションはかなり難しい。また、参加者からの児童生徒へのコミュニケーションは、それ以上に垣根が高いことがわかった。</p> <p>それらのことから、災害時に混乱している駅や街頭でのコミュニケーションは、手話を用いることが難しいことを考えると「サインカード」や「お願い手帳」などのツールの作成と活用がポイントであることが見えてきた。当然であるが、それらのツールを用いたJRや私鉄などの公共機関での避難訓練の必要性を各方面に訴えなければいけないと感じた。</p> <p>また、講演会を通して聴覚障害者の「困り感」の積極的な情報発信と自己の障害受容が求められることが生徒に伝わり、自分が経験した日常生活の「困り感」の改善のため、ユニバーサルデザインについて考えつつ、その延長線上に防災について考える良い機会となるように工夫した。</p>

## 5. 他の団体、地域との連携

協力・連携先の分類	団体名、組織名	協力・連携の内容
学校・教育関係・ 同窓会組織	千葉市立平山小学校  淑徳大学	子ども防災体験での交流など  防災訓練実施の際の学生消防団の派遣
保護者・ PTAの組織	児童生徒の保護者	子ども防災体験への参加および防災安全マップの作成
地域組織	鎌取自治会	子ども防災体験への参加
国・地方公共団体・ 公共施設	千葉市緑区役所地域振興課くらし安心室 千葉市緑消防署	子ども防災体験
企業・ 産業関連の組合等		
ボランティア団体・ NPO法人・NGO 等	S Lネットワーク	
職業、職能団体・ 学術組織、学会等		

## 6. 成果と課題（実践したプラン全般について）

<p><b>成果として 得たこと</b></p>	<p>防災安全マップの作成およびテーマパークにおける避難経路や誘導についての成果物ができた。また、「子ども防災体験」は、地域の防災コミュニティへの参加による障害の理解と共助の意識の共有ができた。あわせて、万が一、災害が再び起こったとしても、被害を最小限に抑えるため、大学や地元自治会と一緒に防災・減災教育を進める必要を本校職員だけでなく地元自治会の方々も感じていただけた。今後は、この成果物や活動実績を活用して各教科の言語力の向上とコミュニケーション力の向上のために活用する。</p>
<p><b>全体の反省・ 感想・課題</b></p>	<p>今回のプランの実施にあたり、「地震発生時に役立つか」と「防災知識が身につくか」の2つを大切にしたい。近隣地域や大学と協同した訓練の実施にあたっては、被災時の適切なコミュニケーションの取り方、自宅周辺の避難所や危険箇所の把握などにより、防災知識が根付くように計画した。自分の命は自分で守る姿勢と能力を身につけるため、繰り返し防災訓練をする必要がある。今後も専門分野で活躍される方々と連携しながら訓練を継続し、学校の防災・減災教育の環境充実の実現に努めたい。今後の課題は、公共の交通機関等と合同による地震を想定した避難訓練の実施をどのように進めるかである。</p>
<p><b>今後の 継続予定</b></p>	<p>今後も今年度と同様に避難訓練や防災講演会を実施したいと考えている。さらに、課題としてあげた公共の交通機関等での避難訓練の可能性の模索を継続したい。また、他県の豊学校と防災に関する授業の実施や防災訓練などについての情報交換を行い、本校の取組について積極的に情報発信を行いたい。</p>

## 7. 自由記述欄 ※6

※6 自由記述欄は、防災教育の実践で得られた知見、防災教育の普及に関わる提案等を盛り込んでください。また、前頁までの記述に不足した事項、参考資料、写真等を自由にご記入ください。なお、3ページ以内厳守をお願いします。

震災など緊急時の根幹は正確な情報伝達につきる。それにより、災害から互いに身を守り、被る被害を最小化でき、生活の不安を互いに軽減することを可能にする。災害状況に応じた正確な避難指示情報や避難生活情報の伝達は、すべての人々の冷静な判断や不安の軽減につながる。しかしながら、伝達は音声による部分が多くを占めており、聴覚障害者においては、情報の入手や理解が困難であることが少なくない。東日本大震災の被災地の多くは、聴覚障害者とその家族に避難指示情報や避難生活情報が届かず、孤立してしまい、不安な中での生活を強いられた。本校では、登下校途上における公共交通機関の事故や災害時の遅延や運休の際、状況説明・遅延情報・乗り換え案内などの困難が顕在化した。以上のような問題の所在を明らかにした上で実践の内容を考えた。

そこから、防災教育チャレンジプランを実施するにあたって「防災教育の時間を十分に取れない」、「適切な教材がない」、「指導方法がよくわからない」などの課題が浮かび上がった。本校は実施にあたっての工夫として、既存の避難訓練をはじめ防災教育チャレンジプランの実践場面で「地震発生時に役立つか」と「防災知識が身につくか」の2つに焦点を絞り実践した。そのことから、前掲したように5つの実践を行ったが、それ以外の事項について記載する。

- ・避難訓練等における視覚的な情報伝達保障を見直した
  - スケッチブックなどに進行表や内容を簡単な説明を書いて見せるなど
- ・校外学習時に緊急対応や避難場所等の事前確認を徹底した
  - 校外で活動する場合における災害時の緊急避難場所や搬送医療機関など校外学習計画に盛り込み、教員の危機意識の徹底を行っている。
- ・電話お願い手帳の携帯
  - 手帳にあらかじめ備わっている使い方の他、安全マップや連絡先等記入した様式を貼り付ける。
- ・ニュースや新聞記事の利用
  - 自立活動の時間や総合的な学習の時間を活用して、日常的に危機意識を育てる。その状況におかれたらどうするか考え、話し合うことを積み重ね、自助と共助の精神の醸成を学校全体で育てている。

(自由記述: 1/3)

A large empty rectangular box with a blue border, intended for free text entry.

(自由記述: 2/3)

(自由記述: 3/3)